

ル・アーヴルの夏 2017

プレス資料

UN ÉTÉ AU HAVRE 2017

ART DANS LA VILLE,
EXPOSITIONS,
PERFORMANCES,
FÊTES, ...

DOSSIER
DE PRESSE

LE
HAVRE
500
ANS

UN ÉTÉ
AU HAVRE
2017



はじめに

ル・アーヴルの町は 1517 年、国王フランソワ 1 世の意向を受けて港が建設されたことにより誕生し、その発展に伴い豊かさを築きました。開港当初からフランス革命までは軍事と商取引という二つの使命を担いながら、そしてその後は植民地をはじめとする海外との交易（コーヒー、綿、木材など）やフランス初のドックと倉庫群の整備を通じて、ル・アーヴル港は町の経済の牽引役として大きな飛躍を遂げます。さらに、半世紀以上ものあいだ新大陸へ向かう大西洋横断航路の玄関口であったことや、鉄道でパリと直結していたことも相まって、19 世紀中頃には海辺の保養地となり、さまざまな水上アクティビティが発展しました。

第 2 次世界大戦中の 1944 年 9 月、ル・アーヴルの町は爆撃によりその 80%が破壊されました。町の再建は国の最優先課題となり、その任は建築家オーギュスト・ペレに委ねられます。「コンクリートの父」として知られるペレは、まさにこの建築資材の価値を高めるべく、コンクリートを活かした町づくりに乗り出します。

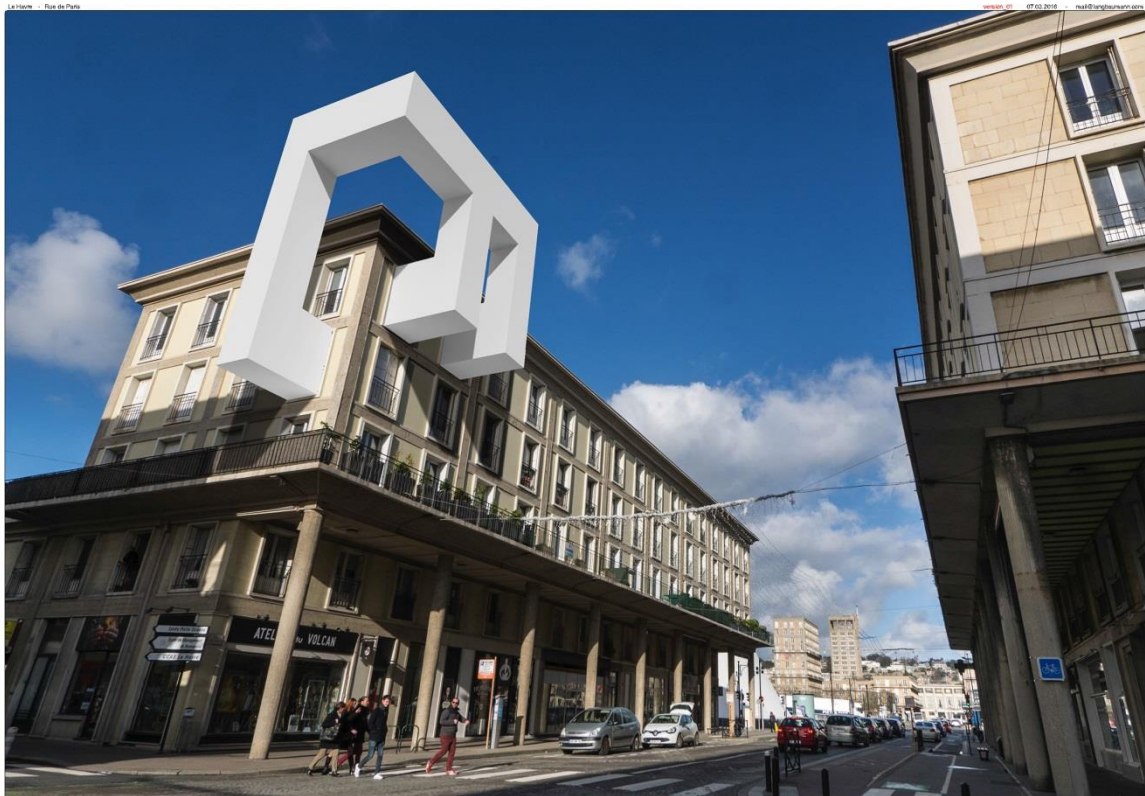
そうして数々の秀逸な建物が誕生しました。その筆頭に挙げられるのがサン・ジョゼフ教会 Église Saint-Joseph で、尖塔の高さはなんと 107 メートル。灯台のように町を見下ろすその姿はニューヨークの摩天楼を彷彿させます。教会は建立当初から優れた建築作品として高く評価されてきました。そのほか、市庁舎 Hôtel de Ville、復興団地 ISAI（Immeubles Sans Affectation Individuelle）、オセアーヌ門 Porte Océane、海と港を臨む集合住宅群フロン・ド・メール・シュッド Front de mer Sud などが再建事業を代表する建築物となっています。

さらに、戦後復興に携わった建築家たちの系譜に連なる形で、ギ・ラニョーとジャン・プルヴェがアンドレ・マルロー近代美術館 Musée d'art moderne André Malraux (MuMa) を、オテック・ザヴァローニが証券取引所 Palais de la bourse（現カジノ）を、ギヨーム・ジレが商船用船溜まりの歩行者専用橋を、ジョルジュ・キャンディリスが共同住宅レジダンス・ド・フランス Résidence de France を設計。ペレの作品を引き継ぐような建築物が次々に生まれました。そして再建事業の総仕上げとなったのが、オスカー・ニーマイヤーの手になるル・ヴォルカン Le Volcan（火山）です。1982 年に落成し、現在は図書館と国立劇場に改修されているこの建物によって、ブラジル人建築家ニーマイヤーの詩情あふれる曲線と、構造的古典主義の巨匠ペレの直交性がこの町で見事なハーモニーを奏でることになりました。

そうした卓越した建築の伝統が評価され、ル・アーヴルの再建された町並みは 2005 年、ユネスコの世界遺産に登録されました。その一方で、この町の建築の伝統はいまなお健在で、2000 年代に入っても数々の作品（ジャン・ヌーヴェルが手がけた水上複合施設レ・バン・デ・ドック Les Bains des Docks など）が生まれています。

ユネスコの世界遺産への登録は、ル・アーヴル市民や来訪者がこの町に秘められた意外な美に気づききっかけとなり、町並みに注ぐそのまなざしが変わりました。美しくきらめく光、強烈な口ックンロール魂、いたるところに見られるデザイン美、独創性に満ちたコンクリート建築の傑作、都市に調和する港—そんな魅力の数々を、人びとがこの町に見出すようになったのです。

ル・アーヴルには素晴らしい眺めを誇る絶景ポイントも数多く存在します。グラヴィル修道院 Abbaye de Gravelle から沿岸部まで、低地と高台を結ぶ階段が 100 以上あり、階段沿いには美しい家々が建ち並んでいます。それらを一段一段上っていけば、予期せぬ眺望を目にし、さらにはこの町の経済や文化の歴史を今に伝える建築遺産に出会うことになるでしょう。



Esquisse projet Lang-Baumann ©Lang-Baumann

Un Été au Havre 2017

ル・アーヴルの夏 2017



©Ludovic Maisant - OTAH

町がアーティストの遊び場に

2017年5月27日から11月5日まで開催される〈ル・アーヴルの夏2017/Un Été au Havre 2017〉は、多彩な形態、多彩な分野から成る祝祭に満ちた充実のプログラムを通じて、好奇心旺盛な人びとにル・アーヴルの町とその港の魅力を紹介する一大プロジェクトです。

このプロジェクトのアートディレクターを務めるのが、カルチャーイベントの開催経験とその手法を高く評価されているジャン・ブレーズです。彼はこれまで、それぞれの開催地の魅力を引き出す新たな文化的アプローチを提唱しながら数々の大規模アートプロジェクトを発案、プロデュースし、大きな成功を収めてきました。フェスティバル・デ・ザリュメ、現代アートビエンナーレ〈エスチュエール〉、ル・リユー・ユニーク、ル・ヴォワヤージュ・ア・ナント、初期のヌイ・ブランシュ（パリ）などがその代表例です。

ジャン・ブレーズと協力コミッショナーたちは公共空間に対するみずからのビジョンにのっとりアーティストたちを招聘し、ル・アーヴルの町と港に宿る美をつまびらかにするため創造性を発揮するよう呼びかけています。ル・アーヴルの豊かな歴史や伝統、そしてその知恵や人材を下支えにして開催される〈ル・アーヴルの夏2017/Un Été au Havre 2017〉は、現在進行形のダイナミックな文化を体現しつつ、ル・アーヴルの町と人びととの新たな関係を切り結ぶ絶好の機会となることでしょう。

アーティストが町の魅力をあらわにする

公共空間を舞台にした創作活動で定評を得ている一群のアーティストを招き、ル・アーヴルの町と港に新たなまなざしを投げかけることになる常設あるいは期間限定のコンテンポラリーインスタレーションを制作してもらいます。

参加アーティスト：塩田千春、スラシー・クソンウォン、ジュリアン・ベルティエ、ラング/バウマン、カレル・マルテンス、バティスト・デボンボーグ、オラフ・ブルーニング、ヴァンサン・ラムルー、ジャス、ヴァンサン・ガニヴェ、クリスチャン・アンデション、ステファン・ティデ、ル・ジャンティ・ギャルソン、マイケル・ランディ、フランク・ジェラルド、ラ・バズーカなど

2017年、この特別なイベントを機に、これまで一般には立ち入りが禁じられてきた場所も含めたル・アーヴルの有名無名のサイトがそのベールを脱ぎ、魅力をあらわにします。

ハイクラスの展示イベント

Le MuMa アンドレ・マルロー近代美術館

Pierre et Gilles ピエール・エ・ジル 2017年5月27日～8月20日

アンドレ・マルロー近代美術館にてアーティストデュオ、ピエール・エ・ジルの展覧会が開催されます。ピエールは1950年ラ・ロッシュ・シュル・ヨン、ジルは1953年ル・アーヴル生まれ。1970年代末から現在までに制作された80の作品を集めて催されるこの回顧展は、写真と絵を組み合わせた、おしゃれで心くすぐるポートレートが織りなす彼らのユニークなアートの世界に浸る貴重な機会となるはずです。



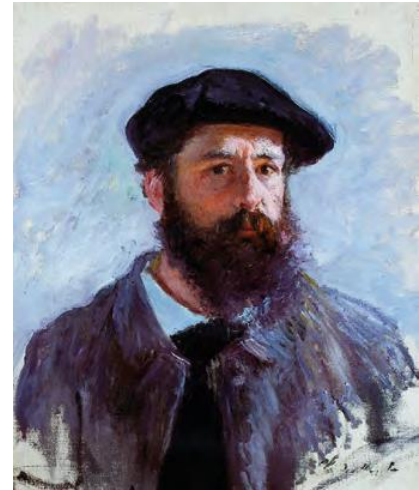
©Pierre et Gilles

Le MuMa アンドレ・マルロー近代美術館

Impression(s) soleil (それぞれの) 印象・日の光

2017年9月9日～10月8日

芸術史を動かす一大ムーブメントとなった印象派。その誕生に立ち会ったこのル・アーヴルで、同派をテーマにした展覧会が開催されます。アンドレ・マルロー近代美術館ではアネット・オディケ主任学芸員の監修のもと、かの有名なクロード・モネの〈印象・日の出〉を中心に特別展を企画。印象派の名画の創造の源泉となったル・アーヴルの町とその光に焦点をあて、ウジェーヌ・ブーダン、ラウル・デュフィ、ギュスターヴ・ル・グレイ、ウィリアム・ターナー、フェリックス・ヴァロットンなどの作品を紹介します。



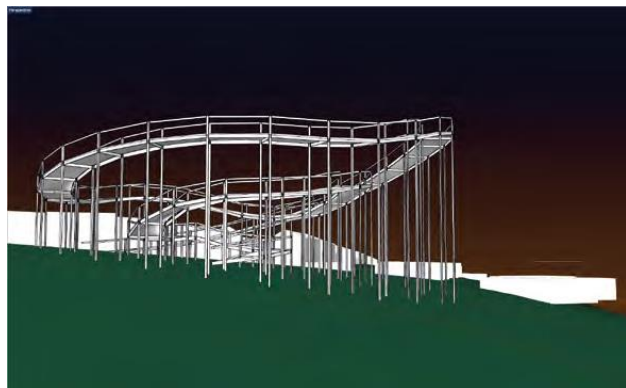
La gare maritime 海の駅 (大西洋横断汽船旅客ターミナル)

French Line フレンチ・ライン 2017年5月27日～10月8日

フレンチ・ラインズ協会Association French Linesがル・アーヴルの海運の歴史を紹介する旅情に満ちた展覧会を開催します。展示されるのは、ヨーロッパ最大の規模を誇る大西洋横断航路運営各社の古文書コレクション。オレリアン・ボリーとリュカ・テボーが空間演出を担当し、訪れた人を大西洋横断航路時代へといざないます。



Claude Monet, Impression, soleil levant, © Bridgeman Images



Esquisse projet Caucrauville © Vincent Lamoureux

アートに親しむにぎやかなイベント

La Magnifik Parade ラ・マニフィック・パレード

Art Point M アール・ポワン・M 2017年5月27日

芸術集団アール・ポワン・Mがプロデュースし、事前に住民と協力して準備されるオープニング祭は、町の高台と低地、コクリオーヴィルの丘から海岸をつなぐ住民総出の壮大なアートイベントになる予定です。

La compagnie Royal de Luxe ロワイヤル・ド・リュクス 2017年7月6日～9日

2017年7月6日から9日まで、パフォーマンス集団ロワイヤル・ド・リュクスとその巨人たちが待望のル・アーヴル再訪を果たし、数十万人の観客を集める奇想天外なショーを披露します。人気の高い大がかりなショーは市内各所で上演される予定。

Fête de clôture クロージング祭 2017年10月8日

〈ル・アーヴルの夏 2017/Un Été au Havre 2017〉のクロージング祭は、ル・アーヴルの町と港の建設から500年の節目にあたる2017年10月8日（日）に、500周年を象徴するインタラクティブなデジタル作品のまわりに人びとが集う大型イベントとして企画されています。この作品は今後500年間、ル・アーヴル市民が500周年を祝う種々の記念行事に参加したことを示す永遠のシンボルとして、町にそのしるしをしっかりと刻むことになるでしょう。



©Fabrice Moley-OTAH

生活の場が祝祭の場に

La gare maritime 海の駅（大西洋横断汽船旅客ターミナル）

普段は使われていないル・アーヴルのかつての海の駅が会期中、一般に開放され、日中は各種アートイベントに彩られたバー&スナックに、夜はクラブに様変わりします。週末のうち4回は特別に、エレクトロミュージックに乗せた祝祭イベントを開催。演出を手がけるのは、芸術集団アール・ポワン・Mに所属し、エレクトロミュージックの音楽フェス**N.A.M.E**を担当するクリエイターたちです。

Le marché aux poissons 魚市場

サン・フランソワ地区quartier Saint-Françoisの魚市場のある広場がデザイナーたちの創作の舞台に早変わり。4カ月以上続くこのイベントに合わせ、市場内の店舗ブースに特別な装いが施されます。

Le Fort de Tourneville トウルヌヴィル要塞

〈ル・アーヴルの夏2017/Un Été au Havre 2017〉の会期中、トウルヌヴィル要塞がクリエイションの実験場、つまり建築家およびデザイナー集団とアーティストたちの交流と出会いの場となり、ル・アーヴルのアートシーンのエネルギーを後押しします。

トウルヌヴィル要塞と地元の活動主体が協力し、プロジェクトをつねに現在進行形で伝える「ワーク・イン・プログレス」の精神で空間をプロデュース。ワークショップ、コンサート、ピクニック、音楽フェス〈シエスト・エレクトロニック〉など、一般向けの無料イベントが2017年夏を通じて多数開催される予定です。

Le Temple aux 5000 vœux et le Jardin Japonais 〈五千願寺〉と日本庭園

1992年に造られ、ル・アーヴル港と大阪港の姉妹提携を強固なものにしている日本庭園。通常は予約制にて見学を受け付けているこの庭が、会期中は一般公開されることになっています。また、これに呼応し、パフォーマンス集団ラ・バズーカが水面に浮かぶ禅寺というダイナミックなインスタレーションを制作。船溜まり〈バスサン・ド・ラ・バール bassin de la Barre〉に、訪れた人が思わず祈願したくなるような作品がお目見えします。寺の中央に設えられる水中観察スポットからは、ル・アーヴルの海に暮らす驚くべき生きものたちの姿を目にすることになるでしょう。



La halle aux poissons © Laurent Bréard

LA BANDE DES HAVRAIS

ラ・バンド・デ・アヴレ

「ル・アーヴルっ子の一団」を意味するラ・バンド・デ・アヴレは、ル・アーヴル在住の8人のクリエイターが新たな地平を拓くため海外に赴き、現地の創作レジデンスに滞在するプロジェクトです。行き先はブラジル、デトロイト、東京、リヴァプールなど。いずれもインスピレーションが刺激され、創造の火花が散ることを期して選ばれた特別な滞在地です。

このプロジェクトは、異国から来てル・アーヴルの町に「外からのまなざし」を注ぎ、住民や旅人に町の知られざる魅力を伝えようとする国際的なアーティストたちの活動の対になるものとして企画されました。つまり、地元のアーティストに「母港」を離れて「外の世界を見る」機会をあたえ、新たな地平を獲得してもらうこと意図しています。

JULIETTE RICHARDS ジュリエット・リシャール

作家、作曲家、通訳

滞在先：イギリス

2015年7月～2016年5、6月

PATRICE BALVAY パトリス・バルヴェ

画家、イラストレーター

滞在先：東京（日本）

2016年5月～6月

FRANÇOIS TROCQUET フランソワ・トロケ

イラストレーター

滞在先：デトロイト（アメリカ）

2016年7月～8月

CHRISTOPHE GUERIN クリストフ・ゲラン

映像作家

コンテナ船に乗り込み大西洋を横断してギアナとブラジルへ

2016年8月～9月

DELPHINE BOESCHLIN デルフィーヌ・ボシュラン

グラフィックデザイナー

滞在先：ブラジリア（ブラジル）

2016年9月～10月

SEBASTIEN JOLIVET セバスティアン・ジョリヴェ

造形作家

滞在先：ニューカッスル（オーストラリア）

2016年8月

BRAV

ミュージシャン、ラッパー

個人宅にてコンサートを行うヨーロッパツアー

2017年2月～3月

LA BAZOOKA ラ・バズーカ

振付師と造形作家からなるグループ

〈ル・アーヴルの夏 2017/UN ÉTÉ AU HAVRE 2017〉

遙かなる沖の呼び声

〈MSCメラビア号〉命名式 2017年6月初旬

MSCクルーズ社の旗艦船〈MSCメラビア号〉は、同社のほかの船舶と同様、フランスのサン・ナゼールにあるSTX社の造船場で建造され、2017年6月1日に発注者に引き渡される予定です。そしてそれに続く6月4日、この新世代の船の命名式がル・アーヴルの港で執り行われます。船はその後マルセイユへ移動し、地中海でその初シーズンとなる航海をこなします。同号のGRT（登録総トン数）は167,600トン、全長は315メートル。2,250の船室を擁し、5,700人の乗客を収容できます。2016年2月1日には船体にコインを溶接し、船の安全な航海を祈る伝統のコインセレモニーが挙行されました。その際、ル・アーヴル市長でセーヌ・マリタイム県選出の国民議会議員も務めるエドゥアール・フィリップは、ル・アーヴル港がMSCクルーズ社のこの花形客船の「名づけ親」になると宣言。そのあかしに、船体に溶接されたコインの一枚にはル・アーヴル市の紋章が刻まれています。ル・アーヴル開港500周年を飾るにふさわしいこの命名式の開催は、ル・アーヴル市民すべてにとっての誇りとなることでしょう。

大型帆船レース〈トール・シップス・レイス〉のフィナーレ

2017年8月31日～9月3日

正式には〈ランデブー2017/Rendez-vous 2017〉と呼ばれる大型帆船レースの最終目的地として、2017年8月31日から9月3日までル・アーヴル港に大型帆船が集結します。

世界最大級の帆船のうちでも海の至宝ともいべき名高い船が参加するこのレースは、2017年4月にイギリスのグリニッジをスタート、ポルトガルのシーネス、バミューダ諸島（アメリカスカップ開催と同時期の寄港）、アメリカのボストン、カナダのケベックシティ（カナダ建国150周年に合わせて特別イベントを開催）、そして同じくカナダのハリファックスを経て、2017年7月31日にル・アーヴルを目指してファイナルレースとなる大西洋横断航海の旅に出ます。

このイベントは非常に多くの人出が見込まれる無料の祭りで、大型帆船が停泊するヴァティーンVatine、ウールEure、ヴォーバンVaubanの各船溜まり（bassin）を中心に、乗組員のパレードやコンサート、花火のショーなど、海の伝統にちなんだ催事が数多く予定されているほか、船を見学することもできます。また、2017年夏のあいだ、ル・アーヴルの若者たちには見習い船員として帆船に乗り込む機会が提供されます。



〈ジャック・ヴァブル大西洋横断ヨットレース2017 ／TRANSAT JACQUES VABRE 2017〉

2017年10月27日～11月5日

ル・アーヴルからカルタヘナ（コロンビア）へと向かう大西洋横断ヨットレース〈トランスアット・ジャック・ヴァブル〉は、〈コーヒーの道〉というレース名を冠していたその第1回大会以来一貫してル・アーヴルをその母港としてきました。世界で最も有名で、最も長い距離を競う二人乗りヨットの大西洋横断レースとなる本大会も、2017年で13回目。同年10月27日より11月5日までル・アーヴルにヨットが集結し、開港500周年に合わせて特別な船出を祝います。



Les voiliers du Havre
©Erik Levilly-VDH

インフォメーション

アクセス

徒歩で、自転車で、船で、トラムで、バスで——ル・アーヴルの町めぐりはとても快適。さらに、公共交通機関に乗り継ぎしやすい場所に駐車場が整備されているため、手軽に車を駐め、ル・アーヴル都市圏交通網（Lia）が運営するバスやトラムなどを使って町の中心部や海岸その他の市内各所にスピーディに移動することができます。

鉄道で

在来線特急列車（アンテルシテ）：パリ・サンラザール駅～ルーアン～ル・アーヴル駅（2時間15分）

高速鉄道（TGV）：リヨン～ルーアン～ル・アーヴル（4時間40分）マルセイユから（6時間30分）

一般道および高速道路で

高速A13号線 パリ～ルーアン～カン（2時間30分）

高速A29号線 アミアン（2時間）

ヨーロッパおよびその他の地域から飛行機で

ル・アーヴルのオクトヴィル空港、ドーヴィル空港

パリのボーヴェ、オルリー、シャルル・ド・ゴールの各空港

船で

ポーツマス港（イギリス）～ル・アーヴル（英仏海峡横断航路）

ル・アーヴル観光局 プレス連絡先：

Eric Baudet エリック・ボーデ eric.baudet@lehavretourisme.com

Alois Hoch アロワ・オッシュュ alois.hoch@lehavretpourisme.com